

# 広島市小社研会報

令和5年8月，9月 第269号

## 研究主題 社会をみつめ，未来を問い続ける社会科教育の創造 －教材の意味からせまる授業づくりを通して－

10月になり，ようやく朝晩が過ごしやすくなってきました。各校におかれましても，各行事の準備や研修など，日々忙しくされていることと思います。

さて，8月18日（金）には，牛田新町小学校において本年度の夏季研修会を広島大学大学院の永田 忠道先生，渡邊 巧先生をお招きし，実施しました。4年ぶりの対面での夏季研修会の開催となり，指導案検討では，協議や意見交流が活発に行われました。参加者の皆様，ありがとうございました。また，運営に携わってくださった方，会場を提供してくださった牛田新町小学校の学校長様，教頭先生をはじめ教職員の皆様には心から感謝申し上げます。

会報269号では，夏季研修会の指導講評の概要，参加者の感想などを記載します。

今回，夏季研修会 全体会 指導講評は，広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 永田 忠道先生と同准教授 渡邊 巧先生の対談形式で行われました。永田先生，渡邊先生が参加された分科会に関する部分に分けて掲載させていただきます。）

---

### 指導講評

広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 永田 忠道先生

---

●大洲小学校 安本先生の提案授業4学年「特色ある地域の人々の暮らし」～日本酒づくりの町「酒都・西条」～について

学年別分科会では，本時のめあて「酒都・西条」を守り続けるために大切なことは？の落としどころをどうするかを中心に協議された。日本酒という子どもたちとの接点がない題材にどのようにアプローチしていくのか，日本酒なしでは西条は語れないのかといったことも話し合われた。どの地域を取り上げる際にも，核になるものがあるので，その核になるものを設定することが大切である。また，「わたしたちの広島」にあるセツブンソウや東広島の国際交流，特に熊野筆の単元をどのように取り扱うのかについては課題として挙げられた。

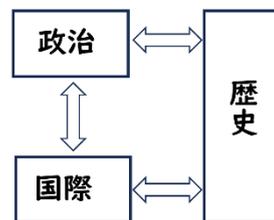
●温品小学校 古田先生の提案授業第5学年「人工知能（AI）が変える社会と産業」について

子どもたちに人工知能を体験させながら、授業を行うことは画期的な取組である。たとえば、原爆ドームがカラー化されると戦争中のことがより鮮明に分かり、想像しやすくなるというメリットがあるが、写真によっては鮮明になりすぎて、学習がしにくくなるというデメリットもあることが懸念された。落としどころは、今ある課題や苦勞していることをAIを使って解決していくというAIの光の部分に着目する必要があると考えられる。

●神崎小学校 河村先生の提案授業6学年「世界に歩み出した日本～明治日本を世界に開いた二人の外務大臣～」について

歴史の授業で外交を扱うのは難しい。そのため、1つの单元だけで理解させるのではなく、どんな外交なのか着目したり振り返ったりすることで、今後、歴史を学ぶときの視点を得られると考えられる。政治の学習と歴史の学習をつなぐという大きな意味がある单元になる。そしてこの学び方は、今求められている社会科の学び方につながるものではないか。

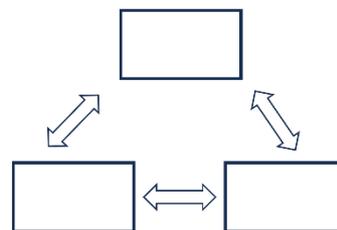
現行の指導要領では、各学年の内容が全てバラバラではなく、それぞれの内容が相互につながっている。例えば、6学年だと歴史の单元だけで取り扱うのではなく、政治や国際の内容をつなげて学ぶことが求められている。また、繰り返し学習することで、より社会が見えてくる。



● 今後について

令和9年度には全国大会が行われる。その大会で、「広島らしさあふれる社会科」を見せるために、どのような言葉が入るかをこれから考えていく必要がある。

(文責 春日野小学校 教諭 河村 実来)



---

## 指導講評

広島大学大学院人間社会科学研究所 准教授 渡邊 巧先生

---

●山本小学校 中村先生の提案授業3学年「火事から暮らしを守る」について

学年別分科会で話題になったことが二点ある。一点目は火事について児童が身近に感じて、当事者意識をもたせるための工夫についてである。火事の学習だが、そこだけにとらわれず、様々な人が安心安全な暮らしを守っていることを学べる流れにするということが考えられる。他にも、実際に小学校で起きた火事を教材にすることも考えられる。二点目は、単元の終末で、児童が自分自身にできることを考えさせる学習が設定されているが、児童自身ができることには段階があり、指導者が単元で何を目標しているのか、一番大切にしたいことは何かによってアプローチの仕方が変わるので、そこに立ち返ることが重要になってくる。

これらのことを踏まえて「安全」についての学習について考えると、火事以外に地域により身近な土砂災害について、指導要領をもとにして単元開発をすることもできる。

●川内小学校 吉田先生の提案授業6学年「なぜ江戸時代は約260年も続くのか!?江戸時代に学ぶ…未来のあり方」について

為政者中心で歴史を見ていく学習の流れが多い中で、広島藩の事例を使いながら地方自治を見ていくという流れで、いろいろな視点が出てくるのが素晴らしい。

昔の政治のことを理解することで、幕府が人を直接支配していたわけではないことが見えてくる。村を支配していたのは寺社だった。そのような知識をもちつつ、教材研究をしていくとよい。

(文責 千田小学校 教諭 山崎 真未)

---

## 夏季研修会に参加して

広島市立高南小学校 教諭 上田 元気

---

社会科部会の夏季研修会に参加するのが初めてでしたので、部会員の先生方の指導案検討を聞いているだけでも大変勉強になりました。

社会科の授業をする上で、教材研究が教科書だけにとどまらないことが今までは「しんどいな」「疲れるな」と感じていました。しかし、夏季研修会の授業提案者の指導案を見て、話を聞いて、少し考えが変わったように思います。それは、先生方がこだわっているところには、いっさいの妥協がなく、突き詰めていっている様子を見て思いました。指導案の事前検討会での話し合いを受けて、夏季研修会ではさらに練られた指導案をお持ちになっていました。それでも、さらに夏季研修会で新たな課題や視点を見出して改善していく姿を見て、授業や単元を作っていくとはこのようなことなんだと感じました。また、どの先生も生き生きとお話をされていることから、自分の今までの考えが少し変わったように思えました。

社会科部会の研修会に次回参加した時には、今回よりも活発に意見を出せるよう、日々精進していきたいと思えた実りある研修でした。

---

## 夏季研修会に参加して

広島市立大州小学校 教諭 松田 登美子

---

夏季研修会に初めて参加をして、社会科の授業の楽しさと授業づくりの難しさを実感しました。一日を通して、「自分ならどうするだろう?」「ここはどういうことだろう?」「どんな手立てが考えられるだろう?」とたくさんの考えをもつことができました。初めてお会いする先生方と授業について話し合うということが、とても新鮮で、新しい見方に気付いたり、これまでの実践から得られたことを教えていただいたりすることがとても嬉しく、

私自身学ぶことが楽しいと思うことができました。また、どんな疑問にも真摯に答えてくださる環境がとてもあたたかく、自分の発言を聞いてもらえるという安心感が学ぶ上で本当に大事なことだと感じました。

教師は、教えたいこと、伝えたいこと、付けてほしい力など、子どものために願い・思いをもって授業を作っています。だからこそ、子どもの目線になって「わかった!」「もっと考えたい!」と思える授業をつくることの大切さについて考えさせられました。導入の場面についての話し合いでは、大人の立場で考えるのではなく、子どもの生活と教材との接点をどのようにもたせるのか、また、どうやって興味をもたせるとよいのか考え、工夫することが大切なのだとわかりました。また、授業の中で、ねらいやキーワードを意識し、授業・単元のゴールを明確にもつこと、単元を貫く問いを深めること、子どもたちが自分たちで考え、答えを導き出すことができるような手立てを考えることなど、これから意識しておきたいと思うことをたくさん教えていただきました。特に、心に残っているのが、「教える内容以上のことも教師は知っておき、頭において授業を作る必要がある。」ということです。いろいろな子どもの考えに、応えることができるように、自分の知識も増やしておこうと思いました。小学校での4年間の社会科のつながりや、他教科とのつながりも意識して学んでいきたいと思います。

最後になりましたが、貴重な提案をしていただいた先生方のおかげで、大変勉強になりました。ありがとうございました。これから、目の前の子どもたちのために創意工夫した授業ができるように励んでいこうと思います。

---

## 夏季研修会に参加して

広島市立五日市小学校 教諭 山下 正範

---

4年ぶりに社会科部会夏季研修会に参加させていただきました。率直な感想は、「何と言ってもリアルでの研修会は良い。」ということです。コロナ禍の中で、しばらく一同に顔を合わせて社会科の指導案を検討する機会がありませんでした。まず、こうした日常が戻ってきたことへの喜びを強く感じました。

私が参加した分科会の指導案検討会の様子について報告します。3名の先生方が提案された内容は、「4年生：西条の酒づくり」「5年生：人工知能(AI)」「6年生：明治時代の外交」でした。どの先生方も強い「こだわり」をもって授業をつくれ、「新しいこと」に挑戦しようとしていることが伝わってきました。指導案を見た際に、どこに着目して意見を述べればよいのか、しばらく悩みました。指導案を見る観点を明確にもっていなければならないと痛感しました。各グループから発表された内容を聞くと、「そんな視点があったのか。」と勉強になりました。自分にない視点や情報を得ることができるのが、指導案検討会の醍醐味です。

各分科会の最後に、広島大学の永田忠道先生から指導助言がありました。「西条のまちづくりは、お酒なしでもできるか。」「学習指導要領の変遷を整理すると何が見えてくるか。」「外交について、この単元だけで勝負をするのか。」などの“問いかけ”を含めた助

言が特に大きな学びになりました。私は、つい唯一の正解を求める悪い癖があります。  
“問われる”ことで、その視点をもって“考え続ける”ことができます。永田先生の助言の数々から、「大きな枠組みで単元を考えてみる」ことの重要性を学びました。夏季研修会を開催してくださった事務局の先生方、講師の先生方、ありがとうございました。

【あしがき】

通常の形式での夏季研修会の開催となりました。4年ぶりということもあり、庶務幹事、代表幹事、運営担当、研究担当それぞれに戸惑われたことも多々あったのではないのでしょうか。また、この猛暑の中、駐車場の案内、会場設営など大変だったことと思います。ありがとうございました。

会報が届くころには、第2回の教科研究会が開催されます。夏季研修会で検討された内容がどのようになっているか見に行きましょう。授業者の方は、授業の準備に苦労されていることと思いますが、その努力は、子どもたちに伝わります。よろしくお願いたします。

広島市小社研事務局次長 吉武 哲